



【協働体通信 HP】

第29号

えひめ 地域づくり協働体通信

令和4年（2022年）3月発行

今号では、四国中央市土居町関川地区（関川公民館）の活動について取材しました。

昨年4月～5月、全世帯に地域課題に関するアンケートを実施後、7月4日にアンケートについての報告会を開き、10月に「みらいの関川を考える会」が設立されるまでの経緯や現状、地域活性化に係る活動への思いや今後の展望をお聞きました。

昨年3月の運営委員会で、0歳～3歳児の人数が1桁台にまで減少していることが話題に上がったことがきっかけで、アンケートを実施、地区の実態を把握後、報告会の開催につなげたとのことでした。

関川地区に住みたい、そのような人を受け入れる地域の雰囲気作りが大切であると語られていました。本紙が皆さまの地域で活動される上で、ご参考になれば幸いです。

四国中央市土居町関川地区

キーワード：「関川公民館」について、「みらいの関川を考える会」について
関川地区の抱える地域課題とこれからについて

★四国中央市土居町関川地区について

四国中央市土居町は、旧伊予三島市と新居浜市という四国有数の工業都市の間に位置しており、国道11号、松山自動車道、JR予讃線が東西に貫通し、交通面でも便利な町です。

特産の赤石五葉松は、太古より自生する五葉松で、昭和32年（1957年）12月4日をもって、赤石山鉦山市区物の1つとして、愛媛県指定天然記念物となっています。

関川地区は、四国中央市土居町の西部、関川上流地域に位置しており、山林など自然豊かで暮らしやすい地区です。

令和4年1月31日現在、1,208世帯、2,632人が暮らしています。



四国中央市土居町関川地区

①「関川公民館」について

関川公民館は、昭和25年（1950年）地域公民館として誕生し、今年で72年目を迎えます。

昨年11月に開催された「関川公民館祭」には多くの地区の方が来られ、作品展示やバザーなど賑やかに行われました。他に「しめ縄作り」も行われ、高齢者と子供たちが一緒にしめ縄を作りました。

このように、地域の拠点（施設）に人が集まったり、人生の先輩である高齢者から子どもへ技術の継承をしていくことも、地域おこしの一つではないでしょうか。

「地域コミュニティ」における、地域と行政との連携は重要で、その中でも社会教育施設である公民館は地域の連携拠点として重要視されており、地域の様々な課題解決に向けたコミュニティ活動全般にまで拡大しています。

公民館に人が集まり、交流を深める、このことが地域活性化の第一歩につながるのではないのでしょうか。



関川公民館

②「みらいの関川を考える会」について

「みらいの関川を考える会」設立のきっかけは、昨年3月の公民館運営委員会で、少子高齢化問題が取り上げられたことでした。

「0～3歳児人口が1桁台にまで減少」この現状を重く受け止めた公民館が、4月～5月、関川地区全世帯と関川小学校児童を対象にアンケートを実施しました。

地区の方の声を聞くことで、地区の実態とどのような地区の課題が存在するのかを把握後、6月に公民館が毎月発行している「館報せき川」で会合について周知を図り、7月4日にアンケートについての報告会を開催しました。当日は44名の方が参加され、地域課題の解決などについて語り合いました。

報告会では、地区の魅力として「自然や人とのつながり」を上げる声がある一方、地域課題として、「公共交通が不便で買い物や通院がしづらい」「医療・金融機関が少ない」「子供や母親が集まれる場所が少ない」などが上げられました。

昨年10月に設立した「みらいの関川を考える会」は、毎月第1月曜日の19時～21時に開催され、地域住民や自治体関係者など20名前後の方が参加され、地区の現状及び課題について検証していく中で、移動販売における商店や自治会との連携について具体的に話を進めて行くことになりました。

③関川地区の抱える地域課題とこれからについて

昨年11月の「第2回みらいの関川を考える会」では、移動販売実施地区である四国中央市新宮町を視察し、関川地区で実施可能かどうかを検証することにしました。

昨年12月の「第3回みらいの関川を考える会」では、移動販売についての具体的な協議を行い、今年1月に株式会社フジの関係者の方と初めての打合せを行いました。

どのルートでどのくらいの時間がかかるのか、集会所を拠点とした場合に何分かかるのかなど、具体的な課題が挙げられました。現時点では、関川地区を上下に分けて2コースで運行する、停留所を22か所設置する方向で話が進んでいると語られていました。

早ければ、今年7月か8月には実施予定とのこと。地区内で買い物をする方が増えることで、地域に活気が生まれることも地域活性化の一つであると感じました。

公民館が地域の交流拠点施設であり、地区住民の憩いの場として活用されることは望ましいのですが、目的利用だけではなく、用事がなくても立ち寄って会話したりできる、コミュニティセンターとしての運営を希望していると語られていました。また、子どもたちの親世代である30代から40代の方にも是非、積極的に地区に対する意見を述べてほしいと語られていました。これからの関川地区について思っていることや感じたことを話してもらうことで、地域の課題は自分たちで解決するアイデアも生まれるのではないのでしょうか。

取材後記

お聞きする中で、コロナ禍での、関川公民館を運営されていく中で、ご苦労されていることを感じました。

また、地域活性化とは、「地域の輪」その輪を作るために、いろいろな世代の人に公民館を利用して、交流してほしいと語られていました。

今回、本紙でご紹介しました、「関川地区住民有志の会」の地域活性化に向けたこれらの取組みが、愛媛県内各地域で活動されている皆さまのご参考になれば幸いです。



この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」 Facebook

地域の活動情報の連絡先/この情報紙に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2235 E-mail: chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail: info@ecpr.or.jp